

## 平成 30 年度総会、講演会及び懇親会

### 1. はじめに

去る 5 月 11 日(金)に行われました「第 27 回道央技術士委員会総会、講演会及び懇親会」について報告します。

開催日：平成 30 年 5 月 11 日(金)

場 所：ホテルウィングインターナショナル苫小牧

時 間：17:00～20:00

総会は例年、室蘭と苫小牧で交互に開催しており、今年度は苫小牧での開催となりました。

講演会は、苫小牧工業高等専門学校須田孝徳氏に「苫小牧高専が実施するフロンティア研究について」という演題でご講演いただきました。

### 2. 講演会『苫小牧高専が実施するフロンティア研究について』～移動車両の試作を例に～

ご講演頂いた須田孝徳氏は、民間企業や北海道大学で勤務された後、平成 28 年より苫小牧高専創造工学科特命教授としてご活躍されております。



須田孝徳氏のご講演

#### (1) フロンティアコースの概要

苫小牧高専では平成 28 年度の学科編成に伴い、次世代起業人材や国際競争能力を持った人材の育成を目的としてフロンティアコースを新設しました。

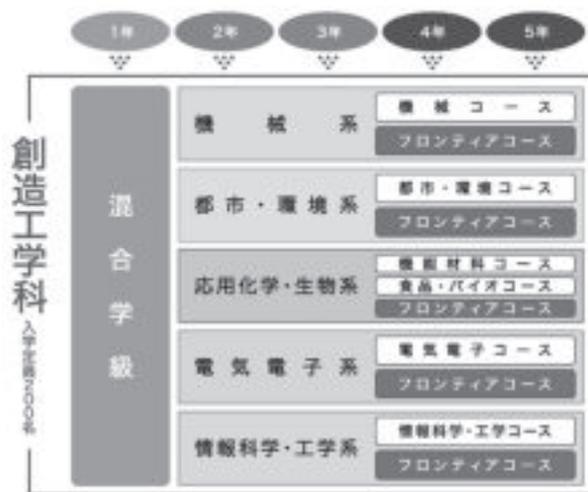


図-1 苫小牧高専の学科編成

#### (2) フロンティア研究の想定内容とトライアル状況

フロンティアコースの 5 年生が行うフロンティア研究では、従来の工学的要素にマネジメント要素を組み入れ、産学官連携と社会・地域ニーズに応じた研究テーマとしている事に特徴があります。

フロンティア研究のトライアル事例として、①寒冷地仕様電気自動車の評価、②電動アシスト付きコンパクト移動車両の試作と評価を紹介して頂きました。①は寒冷地における電気自動車の活用、②は高齢化社会と環境問題に対する移手段の開発といった、いずれも民間企業を含んだ産学官連携と社会的ニーズに応じた研究であります。

同研究は新聞や TV ニュースでも報道されるなど、地域住民にとっても非常に興味深い研究内容であったことが伺えます。

#### (3) 地域とフロンティアコース

上述したフロンティア研究は、【“とまなか”で実施するハイブリッド型イノベーション人材の育成】において、より目的や方向性が具体化されています。

ここで“とまなか”とは苫小牧市を中心とした近隣の市町村群の事であり、“とまなか”の企業等が抱える課題に対し、工学的視点とマネジメント視点(ハイブリッドな視点)から行うフロンティア研究を行うことで、“とまなか”の活性化に貢献する事を目的の1つとしているとの事でした。

### 3. 総会

#### (1) 議案

##### ① 事業計画

事務局より、平成30年度の年間行事予定(見学会及び講演会)の説明と新規会員勧誘のお願いがありました。

##### ② CPD 技術研修会

昨年度から開催していますCPD技術研修会を今年度も開催予定(第2回見学会及び講演会と同時開催)です。CPD技術研修会では、発表希望者が日々携わっている実務内容等を発表し、自己研鑽及び会員相互の交流を図ることを目的として実施します。

#### (2) 北海道本部事務局長の挨拶

北海道本部事務局長 羽二生望氏より「技術士を巡る最近の動向」として、試験結果、統括本部からの話題及び北海道本部の主な動向などについての報告がありました。



北海道本部事務局長 羽二生望氏のご挨拶

### 4. 懇親会

懇親会は岸明仁氏の乾杯の音頭で開会され、講演会の内容についての話題や近況報告など、技術部門・世代・業種を問わず、会場全体で技術情報の交換が活発に行われました。

また、参加者全員で行った壇上からの近況報告で

は、各業界の動向や苦労話など様々なお話を、笑いを交え聞かせて頂きました。

最後に代表幹事長 田中雄太氏の挨拶と締めのご発声をもって盛会の内に閉会致しました。



岸明仁氏による乾杯



懇親会の様子

### 5. おわりに

地方の衰退が叫ばれて久しいですが、地方における雇用創出は、特に労働人口減少傾向の著しい胆振・日高地方において大きな課題といえます。須田先生の講演では地域における新しい雇用創出類型として雇用創出速度の速いプロジェクトベース型が提案されておりました。これは苫小牧の様な大手企業を中心とした地方工業都市における新たな雇用創出の手法として実に興味深い内容でした。

道央技術士委員会では、今年度も2回の施設見学会・講演会を予定しており、より技術の研鑽に励むとともに、室工大や苫高専といった地元教育機関とも連携・共同していく事で地域への貢献を図っていきたいと考えます。